

6月28日（南島原市学校・警察連絡協議会挨拶）

## 「つながり」

長時間にわたりご協議くださりありがとうございました。お疲れ様でした。また本日は、南島原市警察署から遠藤署長様をはじめ、各課の課長様方、南島原市教育委員会から永田教育長様はじめ、学校教育課の宮崎指導主事様にご臨席を賜り、また貴重な情報をご提供くださり感謝申し上げます。

さて、私は平成の始まりとともに教員になりました。まだ携帯、スマホなど普及していない時代でした。「服装の乱れが心の乱れ」と言われていた時代でもありました。例えば、スカートを短くしている、シャツを出している、眉を細く剃っている、化粧をしている、髪を染めている、靴のかかとを踏んづけている・・・生徒たちの心の様子が外見に表れていて分かりやすい時代でした。しかし、今は外見では分かりません。心の闇が見えにくい時代になりました。「え、この生徒が」という時代です。

今の子どもたちは私たちが児童生徒の時代に経験してこなかった「今ここにある世界」と「ネットの世界」と二つの世界で生きています。簡単にいつでもどこでも誰とでもつながることができる社会です。受信も発信も自由自在です。顔が見えない分、SNSでのことばは過激にもなりがちです。

こういう時代だからこそ「今ここにある世界」でのつながりを子どもたちには大事にして欲しいと思っています。一つは「家族とのつながり」、二つ目は「学校で仲間や先生とのつながり」、三つ目は「地域とのつながり」です。つながりが希薄になりつつある時代だからこそ、「つながる」という体験を意図的に子どもたちに仕掛けていくことも今、学校に求められている使命なのかもしれません。

今週月曜日の長崎新聞にほのぼのとするような記事が掲載されておりました。この春に口加高校を卒業して福岡の短大に通っている八木さんと口之津中学校2年の松尾さんとが6年間にわたって文通をしているという記事です。きっかけは、当時、口之津小学校6年生だった八木さんが、1年生だった松尾さんのお世話係だったということです。手紙の中でお互いの近況を報告したり、悩みを相談したりしているということです。八木さんは「手紙だと、より温かみを感じる」と述べています。手書きの手紙の温かみというのは経験して初めて分かることであろうと思います。口之津小学校さんが数十年続けていらっしゃる伝統が縁となって、今も絆を育んでいるという心温まる記事でした。

最後に、この春本校を卒業した荒木瑞姫さんが卒業式の答辞で述べた一説を紹介して挨拶を閉めたいと思います。

**「現代はスマートフォンなどの小さなもので世界中の様々な人と繋がることのできる社会になりました。直接会わなくても簡単に連絡を取り合える時代です。便利な反面、この小さなものに振り回されている現実に虚しさを覚えることがあります。たくさんの人と接する中で人間関係の築き方を学びました。自分とは異なる個性を認め、お互いに向き合うことの大切さに気付きました。これからも人と人との関わり、出会いを大切に生きていきたいです。」**

これからも皆さまとのこのご縁を大切にしながら、子どもたちの健全育成に努めてまいりましょう。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。